

下仁田ネギの成長を繊細に

「葉画家」群馬直美さん 前橋で個展

植物の葉を繊細に描く葉画家、群馬直美さん(60)の個展「下仁田ネギの一生と、ヤマトビオトープ園の葉っぱたち」が、前橋市古市町のヤマト本社一階ギャラリーホールで開かれている。下仁田ネギをモチーフにした作品など力作三十九点が並び、九月二十七日まで。(市川勘太郎)

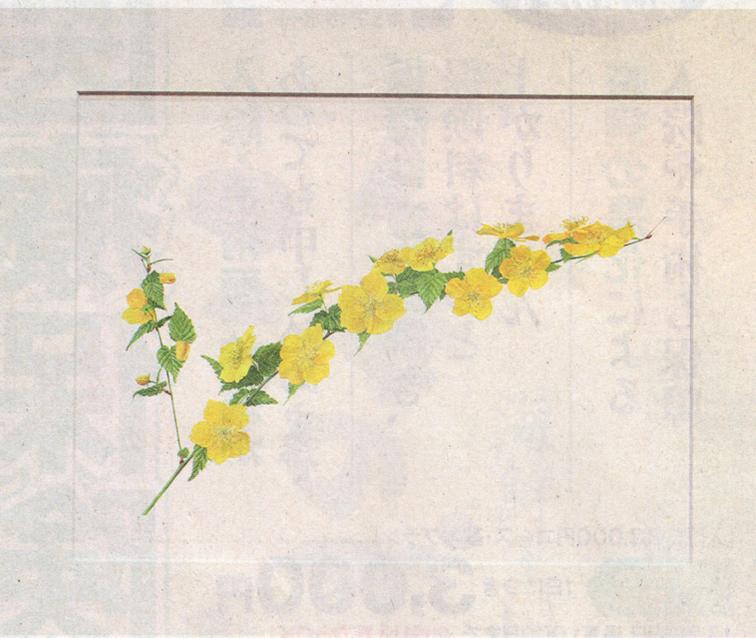
農家通い実物大で描写 英国画展では最優秀賞

群馬さんは高崎市出身。東京造形大学絵画科に在学中、作品が作れなくなっていた時、芽吹いたばかりの葉の色や輝きに癒やされ、「この感動を伝える絵を描こう」と植物の葉をテーマにした創作活動を始めた。大学卒業後、葉の裏に墨を塗り紙に押しつける魚拓のような作品を手がけていたが、三十代で葉を見たまま忠実に油絵で描写した時、手応えを感じた。その後友人に勧められ、葉の細かさをより表現できるテンペラ絵の具を使い始め、現在の作風にたどり着いた。

個展では下仁田ネギが成長する過程を描いた計六枚の作品が目を引く。二〇一六年に約十カ月間、下仁田町馬山の農家に通い、伝統農法で育てられた下仁田ネギを実物大で描いた。

「RHSロンドンボタニカルアート&フォトグラフィショー2019」の受賞盾なども並び、同作品は、今年七月に英国王立園芸協会が主催する植物画展「RHSロンドンボタニカルアート&フォトグラフィショー」に初出で最優秀賞を受賞した。テーマや表現が画期的として満場一致の決定だったという。

群馬さんは「故郷の名産品を描いた集大成の作品が、世界で評価されたのは感無量。今後も身近なものを題材にし、交響曲のような組み作品を描きたい」と意気込んでいる。



開館時間は午前十時～午後五時。入場無料。九月二十一日、二十二日を除く土日祝日は休館。問い合わせはヤマト＝電0277(290)1800＝へ。

下仁田ネギを題材にした作品について話す群馬直美さん。いずれも前橋市で

実物そっくりに描かれたヤマフキ